



東海道・山陽新幹線の主力「N700A」、 JR東海の1000番代をラインナップ!!



N7001000系基本セット (4両)



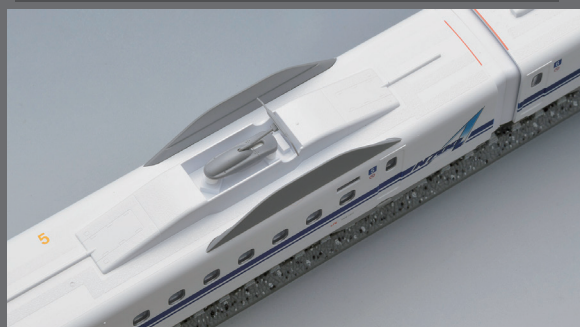
N7001000系増結セットA (4両)



N7001000系増結セットB (8両)



●「N700A」新製車で少数の外観の変化として、夜間の視認性向上を目的に、わずかに変更されたヘッド・テールライト形状を再現しています。また、ヘッドライトは白色LEDで、テールライトは赤色LEDで点灯します。



●グレーの遮音板に挟まれたTPS303形シングルアームパンタグラフは、シュー、フレーム、ベース部の流線形カバー、支持ガイシの各ピースで構成し、実感的な形態を模しています。また、屋根に表記される号車番号と車端部注意喚起の赤ラインは印刷で再現しています。



●乗務員ドア横のみに備わる乗降用ブラグドアを始めとした、N700系シリーズ各部の特徴を実車に則して再現し、「N700A」新製車においてルーバー形状が異なる床下カバーを新たに製作しています。なお、両先頭車に表示される小さなオレンジ色のJRマークの他、各車に表記される乗降用ドア脇の号車番号と禁煙マーク、「N700A」のロゴマークは印刷仕上げとしています。

“夢の超特急”として1964(昭和39)年10月に、0系が東海道新幹線で走り始めてから今年で60年。その間、各地で新たに開業した路線が加わり、さまざまに“進化”を遂げた新幹線車両が登場、公共交通機関の要として重責を果たしてきました。全国に広がる新幹線網の先駆けとなった東海道新幹線と、後年開業した山陽新幹線でも新形式が次々に投入され、さらなる所要時間の短縮と車内の快適さを追求した、N700シリーズ最初のN700-0系(JR東海)・3000系(JR西日本)が2007(平成19)年7月から、それらを“進化”させたN700-1000系(JR東海)・4000系(JR西日本)が、2013(平成25)年2月から営業運転を開始しました。「Advanced=進化した」を表す「A」を加えて「N700A」と呼称するN700-1000・4000系は、最新技術を随所に用いて安全性と信頼性をさらに向上させ、「A」をデザインした大きなロゴマークが一部の車両側面に描かれました。また、先に登場のN700-0・3000系に対して同等の改造を実施、それぞれ2000と5000に番代が改められ、N700Aタイプとなり側面「N700」ロゴに小さい「A」が追加されました。2020(令和2)年7月から運転を始めた後継の「N700S」が増備される中、「N700A」は現在も主力として活躍しています。

トミックスでは新幹線車両を各種製品化してきましたが、この度、「N700A」として新製されたJR東海所有のN700-1000系(N700A)をリニューアル製品化します。モデルは両先頭車、モーター車を含む4両基本セット(1・5・14・16号車)と、トレーラーのみの4両増結セットA(3・4・10・11号車)、モーター車を加えた8両増結セットB(2・6・7・8・9・12・13・15号車)を揃え、16両フル編成に対応し、基本セットの5号車と増結セットBの12号車には、M-13モーター使用のフライホイール付き動力ユニットを搭載、各車には新集電システム、銀色車輪を使用しています。また、トミックス新幹線シリーズでスタンダードの可動式幌と室内カーシートを取り付け、カプラーは「フック・U字型通電カプラー」として車両どうしを電氣的につなぎ、安定した走行とライト類の点灯を図っています。なお、基本セットの車体番号は印刷し、増結セットAと増結セットBには、基本セットにも対応する転写シート(車体番号、グレードアップ用の編成番号/他)を付属します。

N7001000系

(N700A) 東海道・山陽新幹線

- JR N7001000系(N700A) 東海道・山陽新幹線基本セット (4両) <98573> 予価¥16,940 (税込)
- JR N7001000系(N700A) 東海道・山陽新幹線増結セットA (4両) <98574> 予価¥11,880 (税込)
- JR N7001000系(N700A) 東海道・山陽新幹線増結セットB (8両) <98575> 予価¥26,180 (税込)

JR東海承認済 JR西日本商品化許諾済

5月発売予定